

令和元年9月11日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

なお、「並」とは平年値を中心に40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	少	9月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	やや少	9月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	
秋冬ネギ	黒斑病	やや多	9月上旬発生量：並 気象予報：降水量並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 多発ほ場では薬剤防除する。 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌施用と併せて、乾燥時にも即効性が期待できる茎葉散布剤により、薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	やや多	9月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	
	ネギハモグリバエ	やや少	9月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	
冬キャベツ	コナガ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 初期被害を認めたら薬剤防除する。 P3「これから注意を要する病害虫」を参照。
夏秋トマト	葉かび病	やや多	8月下旬発生量：やや多(+) 気象予報：降水量並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の換気を十分に行う。 発生初期から薬剤防除する。 発生初期から薬剤防除する。 黄化葉巻病を媒介するので、発生初期に防除を徹底する。また、黄化葉巻病発病株は必ず抜き取り、適切に処分する。
	アザミウマ類	やや多	8月下旬発生量：並 気象予報：気温高(+)	
	タバココナジラミ	やや多	8月下旬発生量：並 気象予報：気温高(+)	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数 ：少（－） 9月上旬発生量 サツマイモ：やや少（－） 秋冬ネギ：やや少（－） サトイモ：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
	シロイチモジヨトウ	並	8月フェロモントラップ誘殺数 ：並 9月上旬発生量 秋冬ネギ：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
	タバコガ類	並	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：少（－） タバコガ：少（－） 8月下旬発生量 夏秋トマト：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 幼虫は見つけ次第捕殺する。 薬剤防除は若齢幼虫期に行う。
温州ミカン	黒点病	並	8月下旬発生量：並 気象予報：降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 降雨に注意し、散布時期を逸しないようにする。 枯れ枝は伝染源となるので除去し、園外で処分する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	ミカンハダニ	並	8月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 秋ダニの発生に注意する。寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	やや多	8月下旬発生量 温州ミカン：並 8月予察灯誘殺数：並 8月フェロモントラップ誘殺数 ：やや多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

コナガ

コナガはアブラナ科植物を食害する、殺虫剤に対する抵抗性が発達しやすい、難防除害虫の一種である。近年では、平成 25 (2013) 年度以降、県内の複数の地域において「ジアミド系殺虫剤 (IRACコード: 28)」で薬剤感受性 (殺虫効果) の低下が確認されており、注意が必要である。

コナガの被害は、食害痕による秀品率の低下があるが、多発生すると収量減につながることもある。この先 1 か月の発生量は、やや少ないと予想されるが、コナガは短期間で高密度となりやすいことから、気温が温暖となり、降雨が少なくなる多発条件に注意し、発生初期からの防除を心がける。

<被害と発生生態>

初期の被害は、表皮を残して葉裏から葉肉だけを食害した小さな痕が点々とできる (写真 1)。

幼虫は、体長 6~10 mm くらいの淡緑色~緑色である (写真 2)。虫体に触れると跳ねるような動きをし、糸を引いて落下する。

蛹は、体色が緑色~褐色で、粗い網目状の繭に覆われており、葉裏や施設の壁面等に付着する (写真 3)。

成虫は、羽を広げた時の幅が 12~15mm の微小な灰褐色の蛾で、羽を閉じると背にギザギザの模様が現れる (写真 4)。

<防除法>

- 1 常発地では、フェロモントラップを設置するなど、「発生消長 (増減) の早期把握」に努める。
- 2 育苗中から物理的・化学的防除を徹底し、苗によって育苗床から本ほへ卵・幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 防虫網によって物理的に防除する場合は、目合いが 1mm×1mm 以下のものを用いる。

作物が防虫網と接していると網越しに産卵される (写真 5・6) ので、幅に余裕を持った防虫網を使用し、「浮き掛け」や「トンネル掛け」にする。また、防



写真 1 コナガの食害痕



写真 2 コナガの幼虫



写真 3 コナガの繭 (蛹)



写真 4 コナガの成虫

虫網の裾は、必ず土に埋める。

施設等では、開口部に防虫網を設置して、成虫の侵入を防止する。

4 ほ場周辺のアブラナ科雑草は、発生源となるため除草に努める。また、収穫後の残さや、収穫をあきらめたほ場は、速やかに耕うんによるすき込み等により適正に処理する。

5 性フェロモン剤（「コナガコン」「コナガコンプラス」「コンフューザーV（写真7）」等）を利用した交信かく乱法により交尾率を下げ、産卵数を減少させることが期待できる。実施にあたっては、以下の点に留意する。

（1）「交尾後の雌成虫」が既に存在している状態では効果が期待できないため、「害虫発生初期の低密度時から使用すること」が必要である。

（2）「交信かく乱剤の設置地域外で交尾した雌成虫」が飛来すると、産卵により被害が発生する。このため、露地で安定的な防除効果を得るためには、まとまった広範囲の地域に交信かく乱剤を設置する。また、「急傾斜地」「風が強い地域」などは、交信かく乱剤の成分が滞留しにくいので、安定した効果が得にくい。

（3）「交信かく乱剤」と「他の防除手段」を有効に組み合わせた体系防除を行う。害虫の密度が高い場合、交尾率の上昇によって交信かく乱による防除効果が不安定になることがあるので、発生状況に応じて薬剤防除を行う。

（4）薬剤散布を行う場合、土着天敵を温存するために、BT剤（IRACコード：11A）など「天敵に影響の少ない選択性殺虫剤」を用いることが望ましい。

6 薬剤防除を行う場合には、以下の点に留意する。

（1）老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、発生初期に防除を行うよう心がける。

（2）幼虫は、下葉や葉裏に寄生しているので、薬剤散布は散布ムラが無いよう、葉裏まで丁寧に行う。

（3）薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数系統でのローテーション散布を行う。

なお、既に抵抗性の発達している薬剤が認められているが、その程度は地域により差があるため、実際の使用状況から効果を推測して薬剤を選択する。



写真5 防虫網に接している
キャベツ苗



写真6 防虫網越しの産卵で
被害を受けたキャベツ苗



写真7 設置前のコンフューザーV

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・果樹・夏秋トマト：8月下旬，サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	いもち病（穂いもち）	発病穂率（％）	0.04	0.11	0.01		
		紋枯病	発病度	3.89	1.62	3.59	
		縞葉枯病	発病株率（％）	0.75	0.42	0.88	
		ごま葉枯病	発病度	3.65	2.58	4.83	
		稲こうじ病	発病株率（％）	0.51	0.55	0.12	
	イネクロカメムシ ニカメイガ イチモンジセセリ コブノメイガ	25株当たり寄生成幼虫数	0.88	0.50	0.07		
		被害株率（％）	0.00	0.00	0.00		
		25株当たり被害包数	0.02	0.01	0.00		
		上位2葉被害株率（％）	0.00	0.09	0.00		
		セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.17	2.83	2.70	
		トビロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.02	0.00	0.00	
		ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	37.84	16.17	36.55	
		ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	78.52	53.12	112.40	
		コバネイナゴ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.96	0.43	0.93	
	ササキリ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	3.89	2.19	1.94		
	クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ イネカメムシ シラホシカメムシ類 ミナミアオカメムシ 斑点米カメムシ類上記5種 アカヒゲホソミドリカスミカメ アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.71	0.74	0.70		
		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.16	0.21	0.17		
		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.72	0.08	0.07		
		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.06	0.03	0.01		
20回振りすくい取り捕獲成幼虫数		0.00	0.02	0.00			
捕獲ほ場率（％）		47.76	29.53	28.57			
20回振りすくい取り捕獲成幼虫数		0.02	0.05	0.05			
20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.23	0.32	0.18				
サツマイモ (印旛，香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	0.05	0.20		
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	1.14	1.20		
	イモキバガ	被害葉率（％）	2.60	8.43	13.20		
		100葉当たり寄生幼虫数	0.20	2.11	2.20		
サトイモ (印旛，香取，君津)	汚斑病	発病葉率（％）	10.00	5.44	17.20		
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	19.95	12.66	17.60		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.25	5.46	12.40		
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	19.00	4.65	13.90		
秋冬ネギ (山武，長生)	黒斑病	発病度	3.20	3.62	0.20		
	さび病	発病度	0.00	0.01	0.00		
	べと病	発病株率（％）	0.00	0.04	0.40		
	ネギアザミウマ	被害度	29.50	25.96	37.50		
	ハスモンヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.52	0.00		
	シロイチモジヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.16	0.00		
	ネギコガ	被害株率（％）	0.00	0.24	0.00		
	ネギハモグリバエ	被害度	1.10	8.19	8.20		
夏秋トマト (印旛，山武)	灰色かび病	発病株率（％）	0.00	0.00	0.00		
		発病果率（％）	0.00	0.00	0.00		
		果実発病度	0.00	0.00	0.00		
	葉かび病	発病株率（％）	4.40	1.80	6.00		
		黄化葉巻病	発病株率（％）	1.40	0.93	2.00	
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率（％）	0.00	0.04	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率（％）	0.40	0.48	0.40		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（％）	0.40	5.72	3.60		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（％）	0.40	0.68	0.00		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.00	0.00	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率（％）	0.00	0.88	0.00		
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（％）	8.40	6.32	4.80		
	ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	0.74	1.18	0.62	
ハマキムシ類		被害葉率（％）	0.00	0.05	0.00		
ハダニ類		雌成虫寄生葉率（％）	2.95	2.05	0.08		
アブラムシ類		成幼虫寄生新梢率（％）	0.08	0.61	0.15		
吸ガ類		被害果率（％）	0.00	0.04	0.00		

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.10	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.13	0.00	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.03	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.10	0.18	0.40	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	1.80	0.97	0.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.40	0.94	0.80	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.60	0.77	0.20	

トラップ月間誘殺数 (8月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	15.0	17.3	7.7	
	セジロウンカ	〃	10.3	7.4	4.3	
	トビイロウンカ	〃	1.7	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	55.3	9.7	4.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	3555	190	1264	
	フタオビコヤガ	〃	37.3	26.3	18.0	
	イネヨトウ	〃	6.7	5.5	4.7	
	ニカメイガ	〃	11.7	1.6	4.3	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	26.0	51.8	169.7	
	クモヘリカメムシ	〃	39.0	19.5	16.0	
	ホソハリカメムシ	〃	2.7	1.5	1.7	
	イネカメムシ	〃	109.7	18.7	85.7	
	ミナミアオカメムシ	〃	86.0	18.3	41.7	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	27.7	40.1	46.0	
アカスジカスミカメ	〃	157.0	169.1	259.3		
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	11.0	9.6	39.7	
	クサギカメムシ	〃	3.7	7.7	9.7	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.7	1.8	10.3	
	アオクサカメムシ	〃	2.7	1.4	6.0	
	イチモンジカメムシ	〃	1.0	2.3	1.0	
	ホソハリカメムシ	〃	0.0	0.3	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	15.7	22.9	17.3	
	オオビロウドコガネ	〃	1.3	6.5	3.0	
	ヒメコガネ	〃	13.0	6.2	10.0	
	ドウガネブイブイ	〃	5.0	2.6	1.7	
	オオクロコガネ	〃	2.7	7.9	4.3	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	15.0	16.6	23.0	
	クサギカメムシ	〃	7.0	20.4	12.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	3.2	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	28.4	51.9	42.9	
	ヒメコガネ	印旛, 香取	794.2	309.1	238.4	
	コナガ	海匠, 安房	3.1	9.2	15.2	
	ハスモンヨトウ	県内全域	344.1	491.9	714.9	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	34.4	34.2	28.5	
	オオタバコガ	県内全域	29.3	88.7	130.7	
	タバコガ	県内全域	13.7	45.6	38.6	
	ネギコガ	東葛, 香取, 山武	126.4	53.1	53.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛, 印旛, 香取	31.0	27.6	19.9	
	モモシンクイガ	東葛, 印旛, 香取	0.0	1.3	1.2	
	チャハマキ	印旛, 香取	6.0	2.4	0.9	
チャノコカクモンハマキ	印旛, 香取	8.7	19.9	4.8		
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	千葉, 印旛, 香取, 安房	200.2	212.0	42.3	
	ツヤアオカメムシ	〃	14.1	4.6	1.1	
	クサギカメムシ	〃	34.9	4.8	0.8	
	マルボシヒラタヤドリバエ	〃	4.2	4.2	2.0	

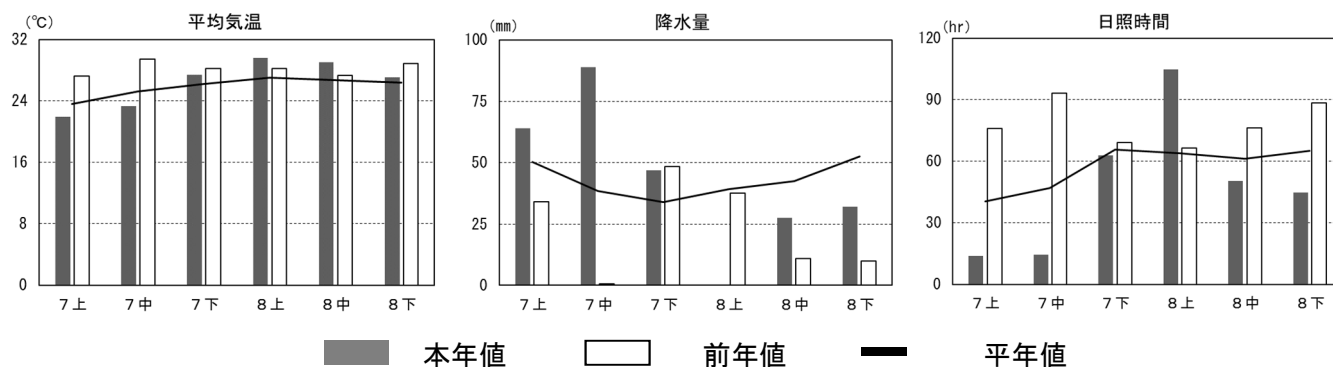
○気象予報

9月5日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(9月11～10月10日 銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	21.6	21.7	21.7
降水量(mm)	214.1	251.7	241.8
日照時間(hr)	113.8	129.4	123.1



※8月上旬の千葉市の降水量は銚子市気象台では欠測したため、農林総研本場観測値で代用した。

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は10月10日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

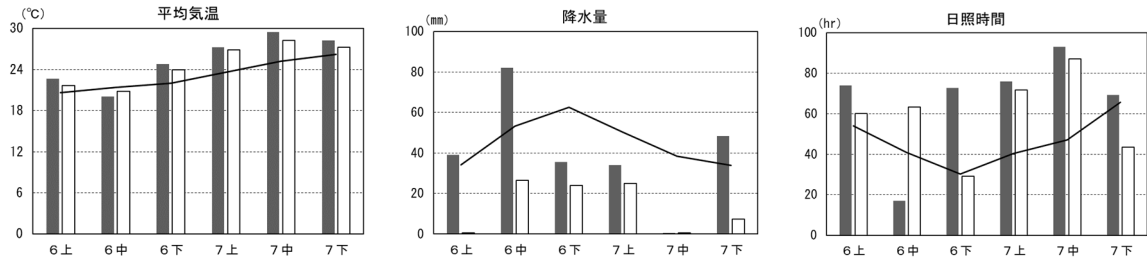
TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

(訂正)

令和元年度 病害虫発生予報第5号(令和元年8月)の最終頁「気象予報」の中の「過去2か月の気象概況」のグラフに誤りがありましたので、以下のとおり、お詫びして訂正いたします。

(誤)



(正)

